狂歌酒百首

全

208
135
帝国図書館蔵

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

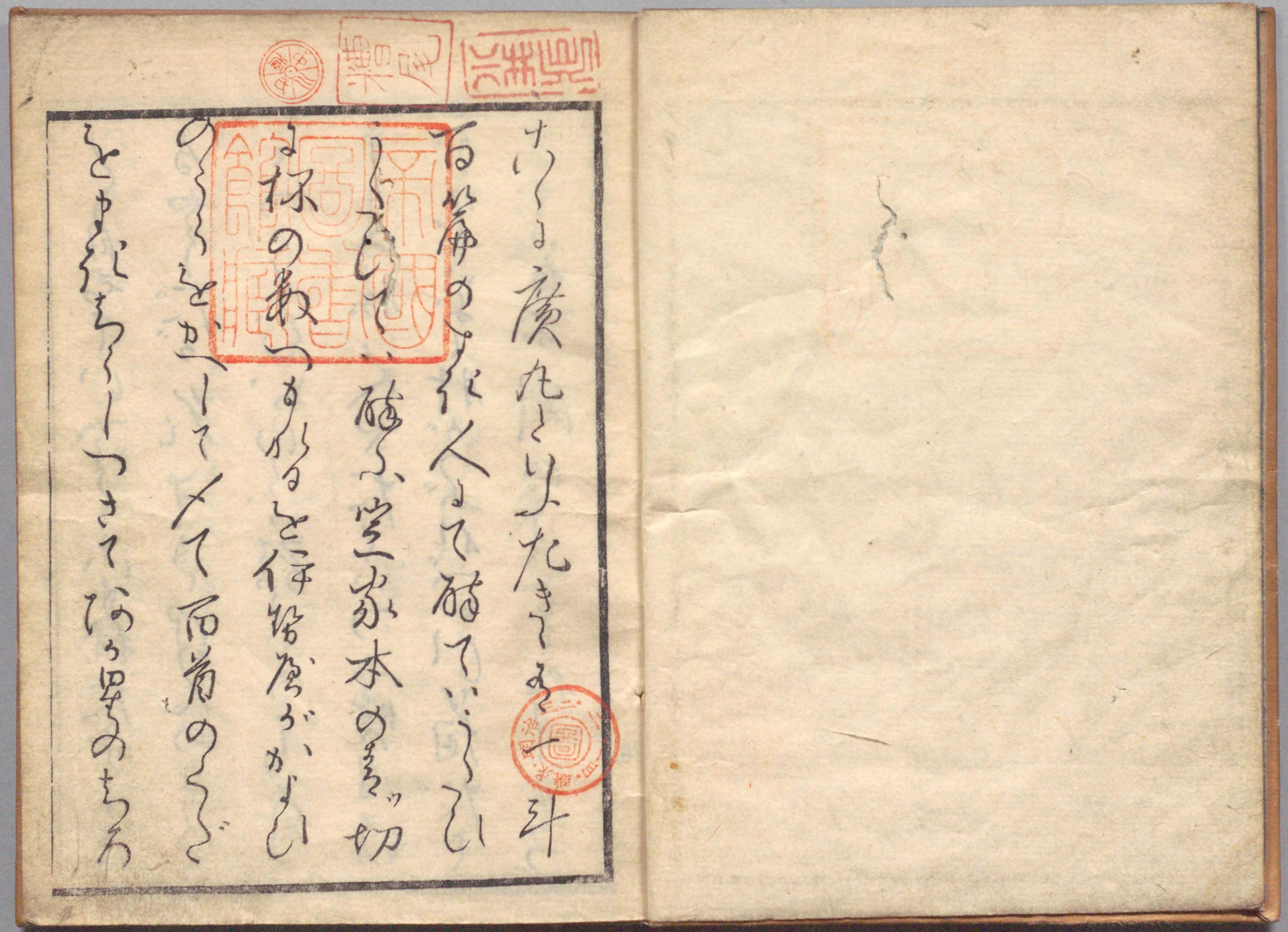
ガラス使用

狂歌酒百首

208
135

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用



けいこ廣たりしたきてみて
百篇の作人まて破ていうこと
破堂家本のまゝ切
は杯の数つもりを信濃がかよい
のゝことかゝてたて百首のうち
をゆたちゝつきてなら里のもろ

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

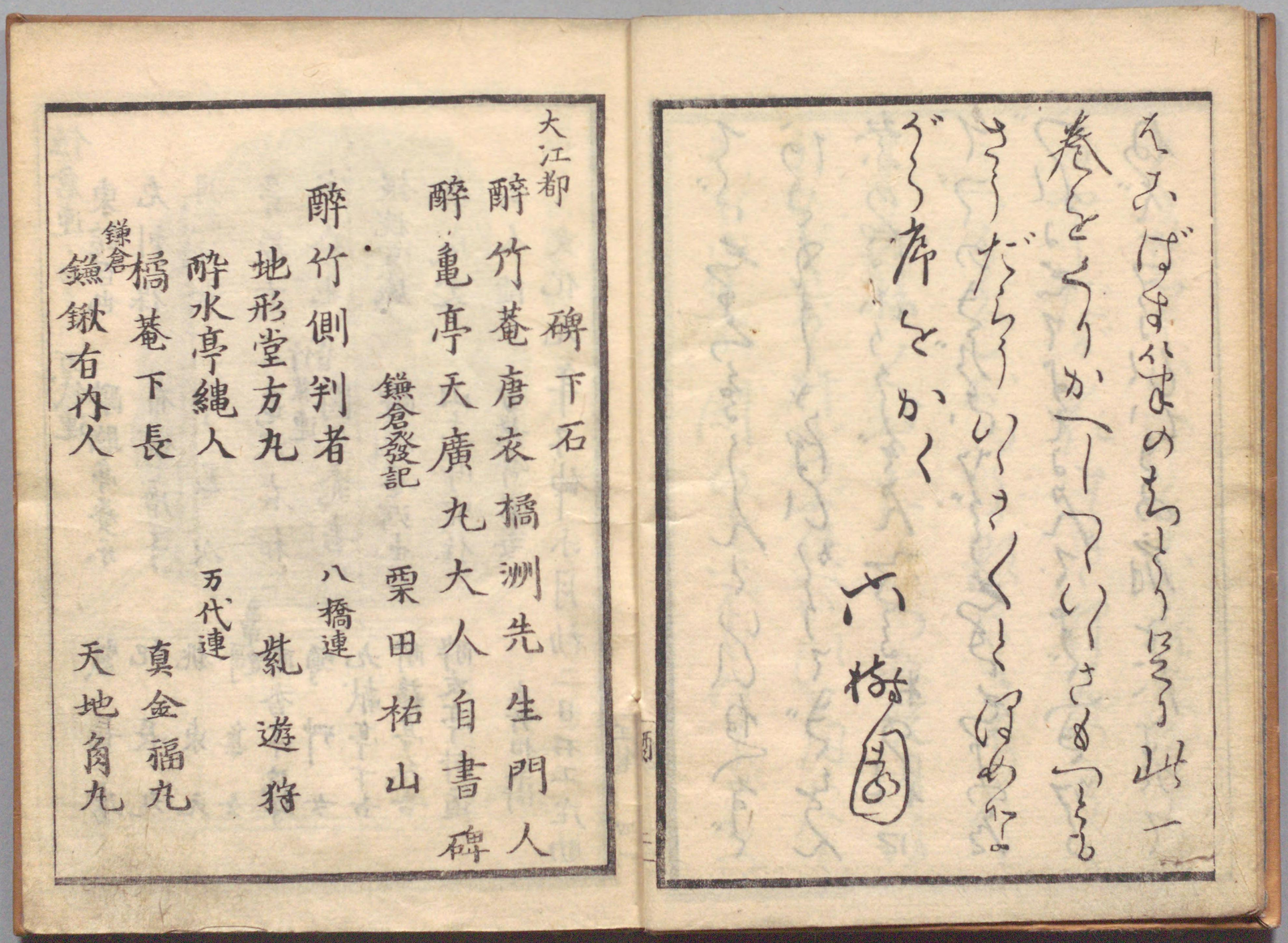
ガラス使用

くるはいとくさい秋たちそめ
るやうだが花すきの男のこと
をつくるむかいの部屋のきちんと
きりの縁人やたくさつの暁月坊
をはじめ肝がつぶれべいし箱だを
そでいねーが関のくいぞねしがちつ

てぶもつらうんとくいねまぐ
ちのきりぬいかりてきをん
祭のはいりうぞんてるおのれに
てでのきだいやぐちまちまの
づれよそてよそるんてまぐきり
ねぐこてるしいきの肩をたまて

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用



国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135
ガラス使用

鎌倉連

東館百也　万代連　醉睡亭夢乎　紙長房

尤利保　布袋庵子　紀長丸

月花詠女　哥墨次　桃東元

奔髪吉　竹葉連　亀沢右和　亀甲連　集女

宝水也　園生奔吉　醉香亭花守　噂州女

銀椀雪盛　醉桃菴写也　九軾亭下吉

桑成丈　山主亭宍住　醉蘓亭糸吉

馬人隨　万葉哥名女　醉友亭外道

文化元年子神示月初二日石工庄助　本所相生街

頼朝公良除畏沙門天座

鎌倉今泉禅寺門前建之

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

故人 唐衣橘洲

稲 友也書

帝国図書館

狂歌酒百首

酔亀亭天廣丸自詠

くむ酒々これ風流のするどなり月をみるにも花をみるにも
まれの年我とゆくれのしるしとこそれ酒あり是れ酒あり
万歳の杯ふくられるさかなにも奥のとぎさ系圀くの酒
とる手に加賀ゆたらぬ奥の宿三味の福茶五味のとそ酒
かとまんのうち出さくて今の礼十帰りあるとその酒碎
吸筒の花の寝ぬれん文あきも日和とおのふ酒あひ
志賀寺の花のちりまじ杯故にふるかくれゆくさの紋
河に出ぐむり出る姿をまくら流をくむる桃のさりつき

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135
ガラス使用

吸角も腰巾をもふりかたくゝ思ふ物くゝよりいくゝを卸くゝ
つきゝね花いつゝ式部花ゝ有ゝも笑ゝく匂ひゝを物酒
めゝ八日をゝ月ゝ花ゝ三日の酒ふ二日をゝひゝ
指ゝくゝゝくゝゝなくゝゝ戸ゝ宿ふかけて初めゝ酒の酒
杯をふゝくゝくゝる女房花ゝ月ゝ月ゝ白きゝ
きゝつゝ花糸引くゝゝ花の影秋のゝゝゝ花ゝ酒
牧ゝ月ゝ燈ゝ酒の者ゝ者ゝ杯ゝ杯ゝふゝ杯の糸
ゝゝ兜ゝゝふ刀ふゝゝふ酒ゝゝふを五ゝゝくゝ放せり
ゝ花ゝの月ゝゝふ角杯花ゝゝゝゝ一杯の酒
ゝ月世ゝ話ゝふゝ酒花酒ゝゝ酒人

ゝゝ花焚火ふ尻をあくゝて酒のゝくゝゝ祝ゝる秋の夜
ゝ酒の酒ゝ世ゝゝ花ゝゝゝゝゝゝゝゝ乃あき
夷秋花ゝゝ水乃者ゝ式菊ふゝ杯花ゝゝゝ
蒲萄酒ゝゝゝ又ゝ花ゝ乃ゝ酒ふ這入ゝゝ
代ゝふ酒ふ月を八代の客相酒上戸の人ゝゝゝゝ
花ゝゝゝ桃ゝゝゝ二年酒ゝゝゝゝゝゝ
百姓花ゝゝゝ花酒花杯乃歩ふ色ゝ人い
ゝゝゝゝゝゝ安ゝゝゝ酒ふ我酒
ゝゝゝ不孝ゝ花ゝ養老乃滝の水ゝゝふゝゝ
久ゝ花ゝふゝゝ酒杯の酒ゝふゝ出ゝゝゝ

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

杯をいくつき乃れい夫わきてとそれ立屋あるさくさきれ垂
うちうりて砂ひとせるる人の丈れ立夕もあるひ戸のさうり
なりわき神ふくうふ玉垂をこのくさくさをあける八乙女
きとあせ一ト戸も上まつ乃人まねよ飲る酒よ猿とる歌
立飲し大弟廃りく二三杯いそけくまる酒をこの〜き
ふうさ〜送る松れた牛乃ちいつれもふ〜とそふたのき
酒をきれめらせ〜や唐倭詩ふる人歌をとむ人
年代記のきふ人ある酒をひ〜ふうふ〜ふ大変れ月
ちる命ふ沈子の尻をつくきも記うんく飲ぬ客人のさけ
世乃中れ人の悲ひを拉田表神酒ふ〜ふ鬼も辨ぬ〜ふと

御神喫を居く飲ちうきやつあうく白髭れ小まりさやま
馬ちうも酒の一弦をこれ牛乃なけきふをつけ矣ひをつけ
加藤ちく飲く壽命を延ちうう人の立稲の先ふうきけ
ん乃酒のちうひ上戸ん手取ぬく声れてうもあるおうさ
玉ふ酒飲く一陽ちふく夜ちいうと冬至れ大ちとそれ
胡桃酒鼻乃陸子を実切りく紅きる風白外（ぬけう
やききれ終乃香れ西とうふを不孫とやつそんあうあの酒
いひ西ふと言れ大一ふ高ときくあくちうふ三人酒辨
人まねれ猿となりる酒辨れつる紙まんうる酒るとこう
いうあいねときれ松乃ことり酒ちく垂をものる心ちまをこ

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

麦酒は碎く裸乃不れたり山乃禪をんをむ〜き
仙人の油釣るり〜野乃弱くいれかりるむりるんの酒
られ中は一升酒の半をの〜を巻る人あり日らふ人あり
花れ手山はひの人人を二季ふの〜る瓢箪れ酒
世乃中れ酒飲人々〜〜酒欲の酒は酒の手く酒の〜乃さけ
せん〜茶の中をきるかるる二百文稱目わるもむ一きんの酒
日きりふ乃弱きる姿はんを七月をひくくありふ味酒
〜れ酒を相れ表徐をくくんふ角れ〜もしをのも
さふ物ふ茶物をる吸角ふ中れ表れる一升れきけ
花りくも物れいりも表ふるりるれ表れる一升の酒

おもんれ鶴乃教くさつきをいくく教のあるきを猫女
千代ふの数ねくくむ酒を弱れさつき乗のさつき
めくれあるきちひ水の酒のんくもをの心あるくせ教人
南人のくき清るも猫の女るも織乃名ある本形やの酒
子れ徐乃めるもをを情多酒わるふいく解く人をき
ふをふつく女蜂男探乃柳るるのむ小を原くく吸赤へる酒
杯るき市戸女もくるし左人るるなる加茂乃むきをけ
自然生れいも酒をのむるのをくまあるるなる世ををしてる
いるを出ぬ上戸れ人の教れれい蛇を教をのんを一合れをけ
一年れ中むるまくく弱中をを半れ物をけ青れきく酒

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

三人共酒飲あけくれもろともにあそぶ孫一人居る家人之徳利
さらはきて成ぬさ孫くさくよ低く見つるもとの酒
下戸ちくんとれ一通とるもの酒のさかな成不破の関ふるーる
我孫をなめくたなきぬ杯に酒はちとせ共くる酒
とれ中をとて独乃やまとをとくたる杖もちともなりふ件のそ
酒辞のおるー言共十帰りも君ち千代松君ち千代変
文四ち孫五ちとーやふたーめるさけとをきれ古流
又めふとやくをくをくを飲酒を水ちんなきぬとられ杯
杯のまりてきくんを柏子木のかちりけり町乃とき酒
柏女ちくんぬ女をさりつきれまーんとりし四ちの時さけ

二三杯風共ちりの生姜をけつ孫のをくふめるぬあつのん
多ち之共杯と徳利乃投ちくくふくふの心酒をふーき
寄ちて一度ふ二斗をのれちくんをめくね拂子をなる九き酒
神仏共ちあくちあくく我禁酒めくちふをのく共れものく
めふ酒と宗旨ちちの酒那寺をあそ下戸ふ隠教を切共
ちくふちる時ち花ち冬成酒百ふをんを世ぬくれた
さちつきれ二ッ生くくを七ち乃世ちふ世きあふ中ちちり酒
丹頂の鶴ちく歌を見る人のあーちちりふちりし酒辞
墨和紙ち共墨酒ををちけく出るも上戸共人の飲役
杯共教ちまれたんまちるかとまちんくきる酒をちの家

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

耳はめる羽衣なりふなりなりつんをうをもきるれ狩衣
そろくとつまり資は生まるつまりてきる酒をひ乃泉
さろつまれさしむるなるれしまんなれ十度ばれさけ
柳腰かをしなさるれるもるれるるの女酒をひ
めくまるるめひるかとの心悪酒の愁ひをたちふ哭れ滝水
剣菱のかくるれやきくく神国のくるむくとるむくるのくるき
ほれなるるるくるふ辟乃家れつるれ九十さけ乃百るる
杯乃おさめとなるくとを酒をたくめ一年は昔恋くき
さるつまく酒よるくる飽ひとんなるる風ふきるるたるなき
上下なるき恋といるくるもき酒のれを迎ば社つれなるるを

興文　今朝むるりとひ一名りみ公主まれ者もち一ふ杜ふむきけ
入船の酒何杯とかさるる杯くのんくゆれぬ春る万代

閑明月の頭巾
くくれ花と中とる
酒をうるるるるるき
六梅園

劉伯倫ハ酒壺の頌をつくりて
ち醉てくるひとうさる唐國の
ちくあまたすくるれたる吾友の先の
廣丸めいちんとうたるのきき
人くるしつまの濁りる酒よりも
あるひとまき玉のうつの中ふるよりく
出るひとの晴日壺坪のあるを
さつひきて新酒のひまを

ちくしといふ和人の糟ちさ者を
かつちもの麦ほ中おくおつを乃
狂ふくふくふくハちをこう絡の
うひまの百首よんでまと醉
ちぬ紀の海の廣ふ上戸ちを
尺つるおのしさ宮あ庫のちをつを物
ちまを外言のはけふかん
ちの口あくしさを

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

208
135

きしりく有けるの主さまに者の
ひとくりまたうまれこさの形の
四季遊雑のきうはく謂ふちと
いろたりのけ書をくたくく

六一園

一

糟屋
東京都立図書館蔵

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

208
135

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌酒百首 208-135

ガラス使用